



# 白聖

はくあ 第16号 令和4年3月15日発行



## 【“今”を未来に繋げよう】

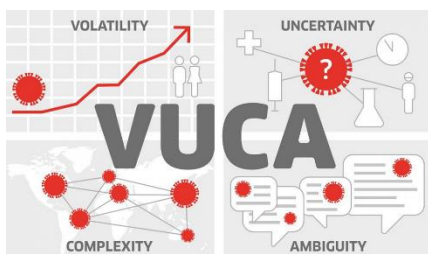
### 《予測困難で不確実、複雑で曖昧な時代》

これからの時代は、より**VUCA**な時代となることが予測されるといわれています。VUCAとは、  
Volatility：変動性 Uncertainty：不確実性  
Complexity：複雑性 Ambiguity：曖昧性  
の頭文字をとったものであり、より「予測困難で不確実、複雑で曖昧な時代」になるということの意味するものとして使われています。

技術の発展などにより、私達を取り巻く変化のスピードや範囲が常に加速し将来何が起きるかを予測することが難しくなっています。また、様々な物事が、単一の要因ではなく相互に絡み合っている多数の要因によって生じるため、解決策を見つけないことや明快な意思決定を行うことがこれまで以上に難しくなっています。

もちろん、どのような未来が訪れるかは様々な要因によって変わってきますが、世界の情勢に目を向けると、これからの将来を考えるうえで重要になってくる要因を挙げることができます。例えば「技術革新（AI・3Dプリンター・バイオテクノロジーなど）、グローバル化や多様性の増大、国際的な不平等の拡大、人口動態の変化、環境変化、資源の枯渇、生態系の不安定化、生物多様性の喪失、新しいコミュニケーション形態の登場、大規模な価値観の変化、規範の揺らぎ、紛争、貧困、人口移動、不均衡な形での経済面・社会面・環境面での開発」などが考えられます。

さらに直面している要因として、新型コロナウイルス・自然災害の増加・テロやサイバー犯罪の増加などがあります。



### 《学習の基盤となる基礎的な学力が重要》

左記のような未知の状況・時代にも的確に対応していくためには、基盤となる教科の知識や、様々な学問分野における思考パターンを身につけることが重要になってきます。

知識と思考力は切り離せるものではなく、両者は相まって発達するものです。思考力さえあれば、知識はつけなくても構わないということにはなりません。思考力・判断力が重要視されるからこそ、「知識の価値」を見誤らないよう注意していきましょう。

「知識なくして思考なし」です。

また、こうした中で、改めて重要になるのが、様々な種類の知識をつなぎ合わせたり統合的に考えることができるようにしていくことです。知識をより深く理解したり、より高いレベルの思考力を身につけていくためには、様々な状況や環境に対して知識をどのように適用していくのかを試行錯誤していくことが重要になってきます。

今後はAIの普及とその社会的な影響によって、従来は必ずしも必要とされてこなかったAIに関する知識が、これからは「教科の知識」として誰もが身につけるべき知識と位置づけられるようになり得る可能性もあります。人間による一つ一つの判断が完璧なものではないにしても、VUCAな状況においては人間のほうが、AIに比べ、より柔軟に対応していくことができると考えられています。

### 《主体性・当事者意識を持とう》

VUCAな時代においては、変わりゆく社会にどう対応していくかという受動的な姿勢よりも、どのような社会を作り上げていくかという能動的な姿勢がより一層重要になってきます。

そのためには、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力を身につけることが重要になります。

つまり将来自分たちが実現したい未来に対して、自分自身で考えて目標を設定し、そのために必要な変化を実現するために行動に移していくということです。そこには自分自身が属する社会に対して当事者として責任を負うこと、また、そのことを自覚していくことも大切です。このような姿勢を身につけるための場の一つとして、学校生活があると考えられます。このような姿勢は自分一人だけで育まれるものではなく、家族や仲間、教師やコミュニティなど、周囲との関係性の中で育まれていくものです。



### 【新年度までにやっておきたいこと】

- ①受験の最終目標である志望校を決める
- ②受験までの学習目標とスケジュールを計画する
- ③出題傾向を分析する
- ④進捗状況を確認しながら計画を実行する
- ⑤必要に応じて計画を軌道修正する

①の志望校を決めることは、自分がこの先どこを目指して歩んでいけば良いかの指針となります。

②の学習目標とスケジュールを計画するために、まずは志望校の入試制度や配点について、自分自身で確認しましょう。志望校の状況や情報を正しく理解することが大切です。

③の出題傾向を分析することも大切です。HPなどを参考にして、自分の目で見ても、自分自身で確かめていきましょう。

④の進捗状況を確認しながら計画を実行に移していくことも大切です。学習した量も大切ですが、自分ができるようになった量を認識していくことで、成長を実感できるはずですが、記憶する時期、整理する時期、演習する時期という見通しを持ってみましょう。

⑤の計画は1週間周期で立ててみましょう。大雑把すぎても、細かすぎても上手くいかない可能性が高くなります。その都度、調整・修正を繰り返しながら、自分に合った計画を確立していきましょう。

さて、ここからは今年度の前期日程受験の結果を含めて話を進めていきたいと思います。

本校における今年度 前期日程入試の合格率ですがC判定からの合格率は64.7%でした。これは、模擬試験におけるB判定相当の合格率（模試B判定 60%以上80%未満）となっています。

つまり、本校におけるC判定はB判定相当の“CHANCE判定”と言えそうです。またD判定の合格率は33.3%、E判定の合格率は、10.8%となっています。この結果からもわかるように、大切なことは最後の最後まで諦めないことです。

模擬試験の判定の結果を見て、志望先を変更する人もいますが、判定は参考資料に過ぎません。大切なことは、自分自身で進学したいと決めた大学を諦めない精神力・決断力・行動力です。



### 【2/17(木)学校推薦型選抜・総合型選抜 合格者ガイダンスの感想】

2023年度入試で学校推薦型選抜・総合型選抜の受験を考えている生徒に対し、試験の方式や準備すべき書類などについて合格者（弘大医・東北大）から直接説明を聞くことで、具体的に何をいつまでに、どの水準まで取り組むべきかを知り、行動を起こすきっかけとなりました。 【自己管理能力】【自己実現力】

●感想 今回3人の先輩より説明を聞き、総合型選抜について具体的に知りたかった。特に、合格のために大切なことを学びたいと思った。今から積極的に実行しようと思った。そして先輩達の姿を見て、今自分はまだ足りないと感じた。確かに学ぶ。と身につけるために、限られた時間を有効に活用していきたい。勉強と同時にメンタル、他の活動、イベントにも積極的に参加し、人間性も磨いていきたいと思う。

●感想 3人の先輩が共通に言うのは「日常の学校の授業をしっかり受ける」ことでした。受験は大変なことがたくさんあるけど、それまでちゃんとやってきたことが自信につながると思うと、むしろ頑張らないうちかと思えました。私は今日のカイダンスを聞いた中で一人勉強が一番実践しやすいと思ったので、私も毎日やるみようと思います。入試の情報を自ら調べ、受験の意識を高めていきたいです。

●感想 今回ガイダンスを聞いて、3人の先輩のお話に共通していると思ったのは、志望理由書も勉強も、今から早めに取りかかるということです。私はまだ志望理由がしっくりこないで、3人もおっしゃっていた「その分野の本を読む」ということを通して、専門知識を身に付けておきたいです。意外だったのはYouTubeの活用です。ただ机に向かい勉強だけが勉強ではないのだとわかり、私もやってみようと思いました。AO入試は努力で受かる試験、ということなので、早速今日から意識を変えて、準備や勉強に取り組んでいきたいです。